

## 常不輕菩薩の生き方に切り替えよう

【11月12月度の御金言】日蓮が南無妙法蓮華經と弘むれば、南無阿弥陀仏の用は月のかくるがごとく、塩のひるがごとく、秋冬の草のかるがごとく、氷の日天にとくるがごとくなりゆくをみよ。 『報

恩抄』(全326頁)

### 法華講信条

- 1, 謗法嚴戒の信仰を貫こう。(信心)
- 1, 行学絶へなば仏法はあるべからず。(行学)
- 1, ただ一言でも妙法を伝える勇氣を持とう。(破邪顕正)
- 1, どんなことがあっても憶持不忘の信心を貫こう。
- 1, 現世利益絶対否定の信心をしよう。(示教利喜)
- 1, 成仏大願、菩提心堅固の精進をしよう。
- 1, 御題目を唱える為にこそ生まれてきた自覚を持とう。
- 1, 噂に流されない、人に媚びへつらわない自立した信心をしよう。
- 1, 妙法聞法の縁を大切に求道の信心をしよう。

1991年2月13日掲載

☆ 現世利益絶対否定の信心をしよう。(示教利喜)

皆さん方と勤行の後や、説法の前に声に出して唱和している常不輕菩薩の二十四文字の經文【我深く汝等を敬う。敢えて驕慢せず。所以は如何。汝等皆菩薩の道を行じて、当に作仏することを得べしと。】

は、世の中の全ての生命に平等に仏の生命が具わっている。その事を常不輕菩薩は出会う人ごとに、その人に向かって、合掌しこの經文を唱え伝えます。

すると、そうされた人々は気味悪く感じて、常不輕菩薩を馬鹿にし蔑み、罵声を浴びせたり、石を投げたり、唾を吐き掛けたり、棒で殴りかかったりします。そうすると常不輕菩薩は、そこから走って逃げて、又遠くから自分を馬鹿にし、傷つけた人に向かって合掌し、同じ様に、あなたの生命には仏の生命が具わっています。南無妙法蓮華經の信心修行する事によって、あなたも必ず南無妙法蓮華經の仏に成る事が出来ます。私は、あなた方が私を見下し、輕蔑し、輕んじても、私は決して、あなた方を輕蔑したり、輕んじたりしません。何故かならば、あなた方には仏の生命が具わっているから蔑む事は出来ないのです。

この二十四文字こそが、私達が唱える南無妙法蓮華經の題目の意味、中味であると、日蓮大聖人は説かれているのであります。そして、これこそが【末法の折伏】であると示されているのであります。

創価学会は、この常不輕菩薩の姿を、【折伏】ではなく【摂受】だ、こんな事をしていたら、いつまで経っても、世界中の人が信心する広宣流布は来ないじゃないか。綺麗事だ、非現実的だ、成仏なんて絵に描いた餅の様なもので、そんな事を話しても誰も聞かない。実際に世の中を変えていくには、御金が儲かる、病気が治る、悩みが無くなる、世の中を変える事が出来る。夢のような平和が実現出来ると言って、

御受戒を無理やりでも、気が変わらない内に御寺へ連れて行って受けさせ、本尊を受けさせ、創価学会員を増やし、組織を拡大し、世界中の人を創価学会員にする事が、広宣流布であり、そうなったら、夢のような平和で自分達の自由になる幸せな世の中なるんだと言って創価学会を指導して来て、現在のていたらくであります。選挙活動を信心の法戦（法の戦争、仏法には勝ち負けの戦いなど有るはずがありません。）と錯覚し、公明党は何があっても与党にしがみつки、政教分離の振りをし、当初国立戒壇の為に結党したにもかかわらず、池田大作に【王仏冥合】の説明のために国会喚問を要請しただけで、怖気づいて方向転換し、国会の場では、信仰を語ることを一切しなくなり、信仰団体であることに触れないように努力変質してしまったのであります。

草創期の創価学会がやっていた事を、現在では【顕正会（旧妙信講）】がやっています。しかし、創価学会と同様、取り敢えず国民投票で日本の国会の多数決の議決を経て、国立戒壇を建立し、日蓮大聖人の法を日本の国教にする。取り敢えず国民の三分の二（創価学会が主張した舎衛の三億と同じパターンの刷り直し）で広宣流布という事にしてでは、広宣流布ではありません。という事は国民総意の国立戒壇ではありません。取り敢えず日本という考え方では、世界一同、一閻浮提広宣流布ではありません。取り敢えず、取り敢えず、取り敢えずの広宣流布など無いのであります。それをあたかも実現出来るかの様に洗脳しているのであります。どれだけデモ行進をしたとしても、国会で議論する為の国民投票は国会議員の専権行為ですから、国会議員が賛成しなければ国民投票は実現しません。そうすると顕正会も創価学会と同じ様に国会議員を国会に送らなければいけません。国会議員を送っても、政教分離の法律を改憲しなければいけません。そうすると国民全体批判を浴び、創価学会と同じ様に変質するか、あきらめて撤退するしかありません。いずれにしても政治の力で取り敢えず日本の国教にして、やがては、キリスト教国、イスラム教国を洗脳して全世界教にするという段階的広宣流布は不可能なのであります。権力、武力によって広宣流布しても、それは、その権力者のいる時代だけの強制強要で作られた広宣流布で、一人一人の心から信ずる広宣流布では無いのであります。強制強要で作られた広宣流布は、勇ましい、華々しい折伏だと考えますが、折伏では無いのであります。日蓮大聖人の法に対する誤解と憎しみを産み、逆に謗法者を増やすだけなのであり、妙法蓮華經の法の縁にもならないのであります。創価学会の常識外れの折伏を受けて、どれだけ多くの人が、日蓮大聖人の法に誤解と憎しみのアレルギーを持っているか、計り知れないのであります。

常不輕菩薩の生き方こそが折伏なのであります。創価学会は、【信心とは生活法だ】とよく言っていました。が、現実には【信心と生活はバラバラの矛盾法】でした。【謙虚、謙虚】と言いながら【傲慢、傲慢】でした。常不輕菩薩の生き方こそ本当の【信心とは生活法】なのであります。自分にも他人にも、同じ様に南無妙法蓮華經の仏性を見出し生きる、どんなにみすぼらしく、みじめたらしく思われ、弱弱しく見られても、妙法蓮華經の法を貫き通し、妙法蓮華經の法を説き続け、名聞名利の心を恥とし、争いの心、憎しみの心、差別の心、怒りの心、他を見下す心、権力財力武力の愚かさを知り、妬んだり、うらやんだり、おもねることをせず、卑屈にならず、

全ての生命、存在に仏の生命が具わり平等であるとの心を持ち続ける事が【折伏】であり、成仏の姿であると日蓮大聖人は自ら示されているのであります。【成仏】が分からないという人がいますが、これが成仏であり、これ以上説明は出来ません。教えられて分かるもの、出来るものでは無いのであります。後は自分で、この事を実行して体得し、人法一体を感じるしかないのであります。現世利益追及は日蓮大聖人の法では無いと、頭で分かっている、心が否定しきれない人が沢山います。損得利益に生きるのではなく、真実の法に生きる事を、常不軽菩薩の生き方は、私達に教えてくれています。